

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	文学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 前期課程における教育職員専修免許取得等や高度専門職志望者に対応した探究型の教育方法の開発を進める。	→従来の大学院における教育方法に加えて、高度専門職志望者に対応した教育方法の試行・検討・普及の進捗状況。	C	C	C	C	B
2. 後期課程(一部前期課程を含む)における外国語による研究発表支援のための教育方法上の工夫、体制の構築を行う。	→外国語による研究発表を想定した教育方法やスタッフ確保などの支援制度開発の進捗状況。	A	B	B	B	B
3. 大学院教育にふさわしいシラバスのあり方を検討し、改善を進める。	→大学院教育の目標にみあったシラバスのあり方の試行・検討・普及の進捗状況。	C	C	C	C	B
4. 修士論文・博士論文執筆にむけた見通しを持ちうる履修・研究計画作成のための支援策を開発する。	→大学院生が論文執筆までの見通しをもった研究計画を策定し、各年度の実施状況の自己点検・自己評価をなすような年次計画書・報告書開発の進捗状況。	B	B	B	B	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 文学研究科12領域それぞれにおける専修免許希望者・高度専門職志望者の割合が他の領域とは大きく相違するので、在学生の進路志望と修了者の進路状況の調査を行い、それぞれの領域でどのような教育方法が妥当であるかの検討を行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 領域ごとの内容に見合った教育の必要性が見いだされたが、高度専門職志望者の割合が高い教育心理学・学校教育学分野では、臨床発達心理士資格のための科目が新たに設けられ、高度専門職志望者向けの新たな教育方法を行うようになった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 各領域でその専門内容に沿った資格等に対するより具体的な教育方法を確立する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆
目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 外国語を扱う領域ではそれぞれの言語のネイティブの専任教員による授業を開講し、プレゼンテーションスキル向上のための指導を行い、総合心理科学領域においても外国語プレゼンテーションスキル向上のためのセミナーや補助金・助成金獲得支援等を行っている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 上述の取り組みを数年来継続した結果、英米文学英語学領域・フランス文学フランス語学領域・ドイツ文学ドイツ語学領域及び総合心理科学領域においては、海外での学会発表や海外の専門誌への論文投稿が増加した。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 他領域においても、外国語プレゼンテーションスキル向上のための授業や支援策を講じるよう努める必要がある。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 授業項目をより詳細に記載し、Webでの公開を行うようになった。また、授業評価アンケートを各指導教官が学期ごとに実施し、それを研究科委員会で検討している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 現状では、シラバスに関する学生の満足度は悪くはないが、本研究科では各領域ごとの特性が大きく異なるため、それらを踏まえたシラバスの更なるわかりやすさを工夫する必要がある。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 講義系科目・演習系科目・スキル向上のための科目等の記載要件をよりわかりやすい形に見直し、更なるフォーマットの統一化を行う。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆
目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 前期課程入試時や後期課程進学時に研究計画書や博士論文計画書の提出に加えて、各学年度末にその年度の研究成果報告書の提出の義務化も行うようになった。領域によっては、学位論文研究の中間報告会も実施している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 単年度ごとに研究成果を細かくチェックすることで研究プロセスの確立が促進され、後期課程研究奨励金や大学院奨励研究員、日本学術振興会特別研究員等の競争的資金にたいして積極的な応募がなされるようになった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学位取得に向けて、学生それぞれが単年度の研究成果を自己点検し、より効果的な履修・研究に生かせるようなシステムを確立する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆
備考			☆